

和太鼓&津軽三味線ユニット

雷舞-[laiv]-



雷舞-LIVE[laiv]-は和太鼓奏者・橋口隆之と津軽三味線奏者・ピエール小野による和楽器ユニット。

共に第一線で活躍する和楽器奏者である二人が、日本人に脈々と受け継がれている固有のリズム・メロディーと、それぞれが培ってきた伝統的奏法という基礎の上に、各自の音楽的ルーツであるHIPHOP・ROCK・TRANCEなど他ジャンルの要素を積極的に取り入れ、日本人にしか表現できない「美」と「粋」、未来に継承する「邦楽」の現在を世界に発信する。2013年にはタイ・バンコクにて『ideo urban pulse by ananda』に招待され演奏。また『にっぽん丸JTBクルーズ』にて2013年・14年と二年連続で公演を行い好評を博す。その他各種パーティー・イベント・敬老会などに出演中。

メンバー紹介

橋口隆之 (和太鼓)



1976年生まれ。東京都出身。太鼓奏者である父、岬史郎の影響で幼少の頃より和太鼓に触れ、9歳から本格的に和太鼓を開始、15歳でプロのステージに立つ。大学在学中、本格的に活動を開始。本グループ江戸寿太鼓の他、TOKYO一番ばやし、BU-SHI-DOサポート等、各種チームに参加し日本各地をはじめ海外への公演も行う。同時に講師として多数のアマチュアチームへの指導・作詞も手掛け、初心者から上級者までカヴァーする独自の理論に基づいた丁寧な指導が好評。2004年、10年来自身が別活動で続けていたClubMusicをベースにした和太鼓

DubBreakbeats band『ngoma』を始動。現在までに3枚のアナログ12inchとCDでのフルアルバム1枚をリリース。ジャイルス・ピーターソンによる英国BBCの名物番組『Worldwide』にて連続ONAIRされるなど国内外で高く評価されている。和楽器同士のアンサンブルは勿論の事、様々な洋楽器や打ち込みとのコラボレーションの場面においても、伝統楽器としての和太鼓の良さを大切に踏まえた上での所謂「Percussion」ではない、「Percussion Instruments」としての「Taiko」のポジションを理解した演奏が出来る数少ない奏者として業界内でも異彩を放つ。

ピエール小野 (津軽三味)



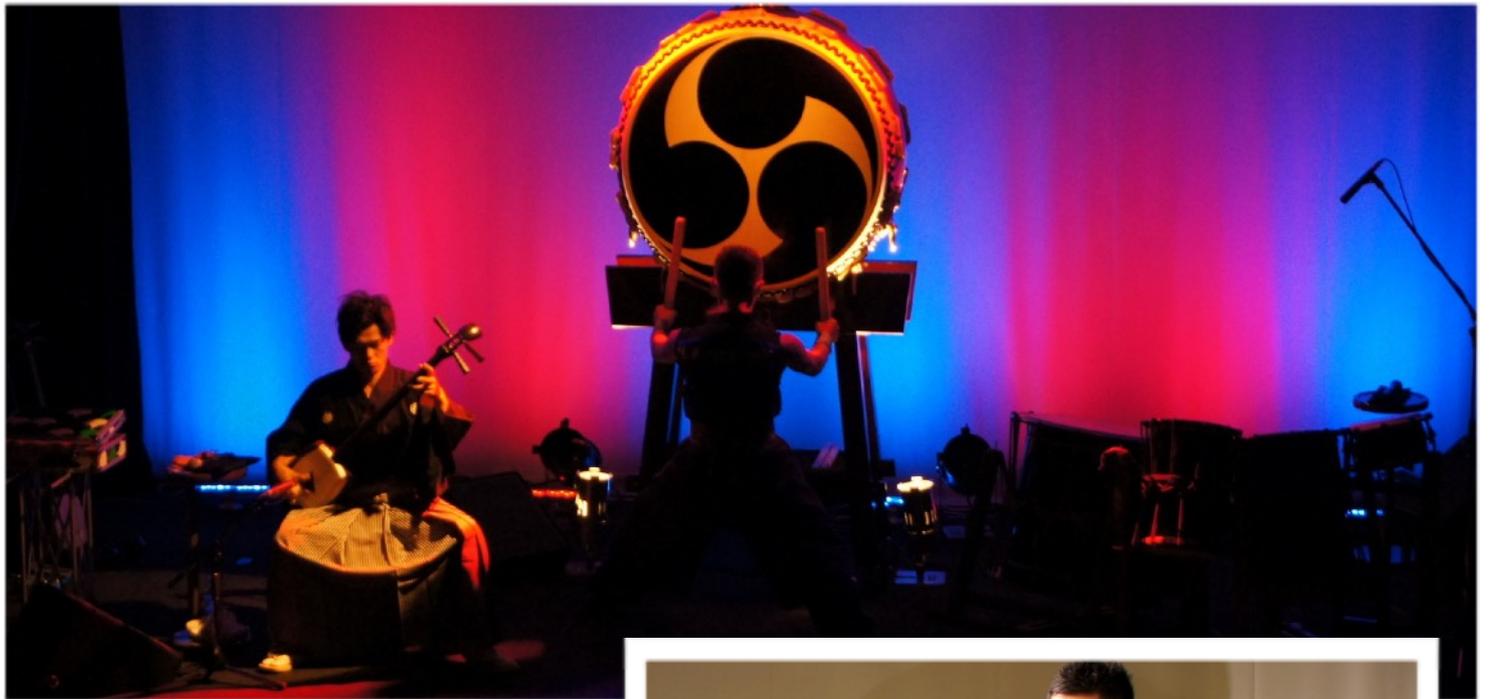
東京都認定ヘブンアーティストライセンスを『セ三味ストリート』『我人』『沙羅璃』として3つ取得し、国内外のフェスティバル・イベント・ライブ等で活躍する「津軽三味線パフォーマー」。映画『座頭市TheLast』(阪本順治監督 香取慎吾主演)三味線演奏、国際オリンピック委員会(IOC)評価委員会公式夕食会にて演奏、東京都知事主催『Explore Tokyo』レセプション演奏。西方雅鳥師のもとで伝統的な奏法の研鑽につとめる一方、バイオリン・ディジュリドゥ・ドラム・ピアノ・ギターなど他ジャンルの奏者とのコラボレーションを積極的に展開中。

主な海外公演

アメリカ・ワシントンDCさくらまつり/サンタフェJIN/ハワイ・アラモワナセンター イタリア/ドイツ/フィリピン/タイ・ベトナム・韓国etc

主な出演TV 『クイズ!ドレミファドン』 『ルート66・風の歌が流れる』 『EZ!TV』(フジテレビ系) 『99 プラス』(日本テレビ系) 『あらびき団』(TBS系) 『お昼ですよ!ふれあいホール』(NHK 総合)etc

Photos



主な演目

- ・ 六段
- ・ こきりこ節
- ・ 三叉戟
- ・ 跳跳
- ・ 津軽じょんがら節

- ・ 荒城の月
- ・ ベンチャーズ
- ・ ソーラン節

その他リクエスト承ります。